

モーツアルト盤を聴く(16)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(16)—

1. 始めに

前報(15)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

PHILIPS 6500 536

モーツアルト DIVERTIMENT in D

DIVERTIMENT in B FLAT

DIVERTIMENT in F

Serenade in D <SERENATA NOTTURNA>

イムジチ

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、いかにもイムジチらしい、軽快で底抜けに快活な再生で、同じディヴェルティメントの曲でも、前報(15)までのボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団のウィーン風の優雅な演奏とは違った趣があります。

ThorensTD124 の再生では、前報(15)までの再生と同様に、生き生きとした躍動的な再生ですが、イムジチらしい、軽快で快活な再生ぶりです。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、イムジチら

しい演奏であることは、LINN LP-12 と ThorensTD124 双方の再生でもよく分かりま
すし、LINN LP-12 と ThorensTD124 の再生パフォーマンスの違いも明瞭に聴き分
けられます。

以上